

寄贈図書リスト

岩波講座 計算科学, 柴田 大, 梅村雅之 他, A5判, 256頁, 3,675円(税込), 岩波書店
誰でも見つかる南十字星, 谷川正夫, A5判, 148頁,

1,800円+税, 地人書館
仏教天文学, 松本郁代, A4判, 154頁, 横浜市立大学貴重資料集成
宇宙をゆく, B5判, 116頁, 1,600円+税, イカロス出版

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp宛。

なお, 原稿も必ずFaxで0422-31-5487までお送りください。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

東京大学大学院理学系研究科物理学教室 助教

1. 助教1名
2. 東京大学大学院理学系研究科 物理学教室 宇宙理論研究室
3. 4. 観測的宇宙論もしくは理論天体物理学。吉田直紀教授と協力して宇宙物理学の研究および大学院教育を推進するとともに, 理学部物理学の学部教育を担当する。
5. (1) 決定後できるだけ早く
(2) なし
6. 博士号を取得していること
7. ○履歴書 (写真貼付)
○業績リスト (主要論文5編以内に印をつけること)
○主要論文別刷 (コピー可) 各1部
○研究業績の概要
○研究計画 (A4判3ページ程度)
○教育に関する抱負 (A4判2ページ程度)
○意見を伺える方2名の氏名・連絡先 (推薦書または意見書を添付しても良い)

8. 平成24年6月1日 (金) 必着
9. (1) 113-0033 東京都文京区本郷7丁目3番1号 東京大学大学院理学系研究科物理学教室 吉田直紀
(2) 同上 吉田直紀
E-mail: naoki-yoshida@phys.s.u-tokyo.ac.jp
Tel: 03-5841-4243

10. 応募書類は, 封筒に「宇宙理論研究室助教応募書類在中」と朱書し, 書留扱いとなる方法で郵送のこと。応募書類は返却しません。

本研究科では, 男女共同参画を積極的に推進しています。

詳しくは下記URLの理学系研究科男女共同参画基本計画をご覧ください。

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku/kihonkeikaku.html>

神奈川工科大学基礎・教養教育センター物理系列任期制教員

1. 准教授1名
2. (1) 基礎・教養教育センター物理系列
(2) 神奈川県厚木市
3. 物理学または物理学を応用する分野
4. 力学, 電磁気学, 物理学実験などの物理系科目
5. (1) 2013年4月, (2) 5年 ただし, 任期の更新または任期の定めのない教員への変更もありうる。
6. 博士号取得者 (取得見込みを含む)
7. (1) 履歴書, (2) 研究業績リスト, (3) 所属学会および社会における活動等, (4) 教育歴, (5) 教育に対する抱負, (6) 研究に対する抱負, (7) 推薦書, (8) 連絡先, (9) 主要論文の別刷 (詳細は

<http://www.kait.jp/recruit/> を必ずご覧ください)

8. 2012年8月31日(金) 必着
9. (1) 〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030
神奈川工科大学
「庶務担当部長気付(物理系列) 教員選考委員会」
- (2) 基礎・教養教育センター物理系列 教授
万代敏夫
Tel/Fax: 046-291-3076
E-mail: bandai@gen.kanagawa-it.ac.jp

国立天文台研究教育職員 (TMT 推進室)

1. 教授1名
2. (1) 国立天文台TMT推進室
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学
4. 国立天文台はALMA計画に続く、次期大型計画として口径30mの光赤外線望遠鏡TMTをハワイ島に国際協力事業として建設することを目指しています。TMT推進室の緊急の課題は日本の担当部分の製作計画の具体化と、それに基づく概算要求案の策定、建設予算の獲得です。TMTによるサイエンスを展望しつつ、TMT推進室の中核メンバーとして計画を遂行して日本の役割を全うする重責を担う教授1名を公募します。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 任期なし
6. 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 論文リスト、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2012年6月20日(水) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台台長 林 正彦
- (2) 国立天文台TMT推進室長 家 正則
Tel: 0422-34-3520, Mobile: 090-6565-6152
E-mail: m.iye@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「TMT推進室教授応募書類」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。応募書類は返却しません。
11. 選考は国立天文台運営会議で行います。国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。詳しくは<http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/danjokyodo/> をご覧ください。

国立天文台研究教育職員 (TMT 推進室)

1. 准教授1名
2. (1) 国立天文台TMT推進室
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学
4. 国立天文台はALMA計画に続く、次期大型計画として口径30mの光赤外線望遠鏡TMTをハワイ島に国際協力事業として建設することを目指しています。TMT推進室を軸として行う概算要求と計画推進を共に担い、TMTによるサイエンスを実現する装置計画の具体化、計画の科学目的とその意義を伝える活動の統括を担当する准教授1名を公募します。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 任期なし
6. 大学院博士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 論文リスト、(4) 研究計画書、(5) 本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2012年6月20日(水) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台台長 林 正彦
- (2) 国立天文台TMT推進室長 家 正則
Tel: 0422-34-3520, Mobile: 090-6565-6152
E-mail: m.iye@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「TMT推進室准教授応募書類」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。応募書類は返却しません。
11. 選考は国立天文台運営会議で行います。国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。詳しくは<http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/danjokyodo/> をご覧ください。

国立天文台研究教育職員 (TMT 推進室)

1. 主任研究技師1名
2. (1) 国立天文台TMT推進室
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学に関連する技術開発・業務
4. 国立天文台はALMA計画に続く、次期大型計画として口径30mの光赤外線望遠鏡TMTをハワイ島に国際協力事業として建設することを目指しています。プロジェクト業務を補佐して、各種会議やマイルストーンのスケジュール管理、文書管

理を担い、事務部門とともに概算要求と契約業務を担当する主任研究技師1名を公募します。

5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) 任期なし
6. 大学理系学部卒業、またはそれと同等以上で、国際業務やプロジェクト従事の実績がある方を希望しています。
7. (1) 履歴書(写真添付、学歴は高校卒業から記載)、(2) 実績・業績報告書(現在までの実績(例えば、実務経験で具体的内容)や業績(例えば、論文、特許、学会等での発表など)を明記)、(3) 志望動機と抱負、(4) 本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先
8. 2012年6月20日(水) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台台長 林 正彦
(2) 国立天文台TMT推進室長 家 正則
Tel: 0422-34-3520, Mobile: 090-6565-6152
E-mail: m.iye@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「TMT推進室主任研究技師応募書類」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。応募書類は返却しません。
11. (1) 勤務形態: 専門業務型裁量労働制
(2) 待遇
給与、諸手当等: 自然科学研究機構の規程による。准教授相当。
健康保険: 文部科学省共済組合
年金: 文部科学省共済組合
雇用保険: 加入
(3) 国立天文台の概要等については下記のホームページを参照してください。
<http://www.nao.ac.jp/>
国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。詳しくは<http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/danjokyodo>をご覧ください。

国立天文台研究教育職員(重力波天文学)

1. 教授1名
2. (1) 重力波プロジェクト推進室
(2) 東京都三鷹市
3. 重力波天文学
4. 国立天文台は重力波検出の実現と重力波による新しい天文学を目指して、関係機関と協力してKAGRAの建設を進めています。KAGRA計画の推進に必要な技術開発研究で中心的な役割を果た

すとともに、重力波による天文学研究の推進にも指導力を発揮できる研究者を求めます。天文学や物理学における開発的研究に実績がある方であれば、従来の研究分野は問いません。

5. (1) 採用決定後なるべく早い時期。
(2) 任期なし
6. 博士の学位を有するもの
7. (1) 履歴書(写真貼付)、(2) 研究歴、(3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記してください)、(4) 主要論文のコピー、(5) 研究計画書、(6) 本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先。
8. 2012年6月29日(金) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台台長 林 正彦
(2) 国立天文台台長 林 正彦
Tel: 0422-34-3650
E-mail: daicho@nao.ac.jp
10. 封筒の表に「重力波プロジェクト教授応募書類」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。電子メールでの応募は受けられません。応募書類は返却しません。
11. 選考は国立天文台運営会議で行います。国立天文台は男女雇用機会均等法を遵守し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めています。詳しくは<http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/danjokyodo/>をご覧ください。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

明星大学理工学部総合理工学科(物理学系) 准教授または助教

1. 2011年12月(第104巻12号)
2. 小野寺幸子(助教)
3. 2012年4月1日

賞の推薦

(財)井上科学振興財団、第29回井上學術賞・研究奨励賞などの受賞候補者

2012年度(財)井上科学振興財団は井上學術賞、研究奨励賞などの受賞候補者の募集をしております。

第29回井上學術賞の推薦

1. 概要: 自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を上げた50歳未満の研究者に対し、學術賞(賞状および金メダル、副賞200万円)を贈呈する。
2. 募集方法: 指定の関係34学会、および財団の役員・評議員等からの推薦。
3. 天文学会からの推薦件数: 2件
4. 推薦締切日: 2012年8月17日(金) 日本天文学会事務所着
5. 天文学会への推薦に必要な申込用紙は下記財団のホームページにあります。
ほかに井上研究奨励賞(9月20日締切)、井上リサーチアワード(7月31日締切)こちらは井上科学振興財団へ直接応募となっております。

◎照会先: 公益財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15

南平台今井ビル601

ホームページ: <http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

Tel: 03-3477-2738 Fax: 03-3477-2747

E-mail: inoue01@inoue-zaidan.or.jp

第3回(平成24年度)日本學術振興会育志賞受賞候補者の推薦依頼

推薦依頼が各大学・関係研究機関の長、各関係学会の長宛に依頼がきております。

受け付け期間: 平成24年6月13日(水)~6月15日(金)

(社)日本天文学会事務所へ切: 5月末日

詳しくは【URL】<http://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/index.html>

研究助成

2012年度住友財団基礎科学研究助成

助成対象: 理学(数学, 物理学, 化学, 生物学)の各分野およびこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの(それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む)

応募資格: 若手研究者(個人またはグループ)

助成金額: (1) 助成金の総額 1億6,000万円

(2) 1件当たりの助成額 最大500万円

(3) 助成件数の目処 100件程度

(4) 助成期間 1年間 ただし希望される場合はさらに6カ月間を限度として延長可。

応募方法: 住友財団のホームページ(<http://www.sumitomo.or.jp/>)基礎科学研究助成から、募集要項・申請書記入要領・申請書フォーム(PDFとWORD)をダウンロードして申請書ファイルを作成していただきます。その後、ファイルから申請書を印刷して財団まで郵送していただきます。申請書はまず6/23までに申請書1ページのデータを財団宛て送信し受付番号を取得後財団まで郵送していただきます。

応募締切日:

データ送信の締切: 2012年6月20日(水) 必着

郵送書類の締切: 2012年6月29日(金) 必着

連絡先: 〒105-0012 東京都港区芝大門1-12-16

住友芝大門ビル2号館

公益財団法人住友財団(担当 中山)

Tel: 03-5473-0161 Fax: 03-5473-8471

E-mail: sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp

URL: <http://www.sumitomo.or.jp/>

藤原セミナーの募集(2013年~2014年開催)

趣旨

藤原科学財団は、科学技術の振興に寄与することを目的として、2013年~2014年の間に「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から、下記募集要項に基づいて申請を受け付けます。申請された案件について選考を行い、採択されたものに対してセミナー開催に必要な経費を援助いたします。

1. 対象分野: 自然科学の全分野

2. 応募資格: わが国の大学等学術研究機関に所属す

る常勤の研究者

3. 開催件数: 2件 以内
4. 開催費用援助額: 1件につき12,000千円以内
(総額24,000千円以内)
5. セミナーの要件:
 - (1) セミナーは、国際的にも学問的水準の高いものとし、そのテーマはなるべく基礎的なもので、関連分野を含めた発展に寄与するものであること。ただし二国間会議、定期的に行われる国際会議、およびその準備会議、サテライト会議は対象としない。
 - (2) 参加者は、50～100人程度とし、外国人研究者が参加者の5分の1程度含まれること。なお、国内外の優れた研究実績を有する若い専門研究者の参加を奨励する。
 - (3) セミナー開催対象期間は、2013年1月1日～2014年12月31日
 - (4) セミナーの開催地は、日本国内であること。
 - (5) セミナー開催日数は、2～4日以内とする。
 - (6) 参加者が、セミナー開催期間中、起居を共にすることを原則とし、計画された講演・討論のほか、個人的な討論など自由な雰囲気での学問的な交流と人間的接触を深め、永続する協力の基盤を作るようなものであること。
6. 申請受付期間: 2012年(平成24年)4月1日(日)～同年7月31日(火)(必着)
7. 申請の方法: セミナー開催希望者は、「藤原セミナー開催申請書」(1通)を、所属組織長を経由して当財団に提出すること。なお、著名な参加予定者については、セミナーのテーマに関する主要論文(5名以内1人につき1編、コピーで可)を添付のこと。

8. 申請書提出先・連絡先:

〒104-0061 東京都中央区銀座3-7-12
 公益財団法人 藤原科学財団
 Tel: (03) 3561-7736 Fax: (03) 3561-7860
 藤原科学財団ホームページ
<http://www.fujizai.or.jp>

*なおホームページ上にも開催申請書のwordファイルとPDFファイルが掲載されています。

研究会・集会案内

第21回 公開セミナー「天文学の最前線」
 ～命を育む宇宙、太陽、そして惑星～

名古屋大学と名古屋市科学館では毎年夏休みの時期に、第一線で活躍する天文学研究者を集め、一般向けのわかりやすい講演会と体験型研究室紹介を開催しております。

21回目の今年は「命を育む宇宙、太陽、そして惑星」と題し、宇宙物理学から生物学までの幅広い分野の講師の方々が、最先端の研究成果について講演します。

日時: 平成24年8月5日(日)～7日(火)

会場: 5日: 名古屋市科学館 サイエンスホール, プラネタリウムドーム (Brother Earth)

6日: 名古屋大学 (坂田・平田ホール 理学南館)

7日: 名古屋大学 (坂田・平田ホール 理学南館)

主催: 名古屋大学大学院理学研究科, 名古屋市科学館
 講師: 草野完也 (名古屋大学教授)
 住 貴宏 (大阪大学准教授)
 長沼 毅 (広島大学准教授)
 松田卓也 (神戸大学名誉教授)
 持田大作 (名古屋市科学館学芸員) 他

内容: 講演会 (5, 6日), 体験型研究室紹介 (7日)

対象: 高校生以上

定員: 300名 (高校生・大学生・教員優先, 研究室見学は定員100名) なお申込み多数の場合, 学生・教員の方を優先し, 一般の方は抽選となります。

資料代: 500円 (学生), 1,000円 (一般)

締切: 7月1日(日) 必着

申込方法: インターネットまたは往復はがき

○インターネット: 公開セミナーホームページ

<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/study/astro/seminar/boshu.html> より

○往復はがき:

「往信面の裏面」に、住所、氏名(参加者全員をふりがなとともに)、高校生・大学生・教員・一般の区分、研究室参加希望の有無

「返信面の表面」に、参加代表者の住所と氏名(返信面の裏面には何も記入しないでください)を記入のうえ、下記住所までお送りください。

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番1号
 名古屋市科学館学芸課天文係「公開セミナー」係
 (申込時の情報は、主催者開催のセミナー等の案内以外には使用しません。また、締切後、1週間程度で受講票をお送りします。当日は受講票を持参のうえ、ご参加ください)

内容問合せ先: 名古屋大学大学院理学研究科 Ta 研
 「公開セミナー」係 (鈴木 建)
 Tel: 052-788-6196

第8回最新の天文学の普及をめざす

ワークショップ

—世界最先端を突き進む『すばる望遠鏡』—

〈参加者募集〉

国立天文台天文情報センターは、現在行われている天文学研究最前線の様子を広く社会に伝えるため天文学普及のためのワークショップを開催いたします。

日時: 2012年9月09日(日)~13日(木)

[ハワイ現地の集合日—解散日]

場所: 自然科学研究機構 国立天文台 ハワイ観測所

Subaru Telescope

650 North A'ohoku Place, Hilo HI 96720, U.S.A.

Tel: +1-808-934-7788

対象: プラネタリウム・公開天文台・科学館・学校等の職員で天文学の教育・普及に携わっている方および科学コミュニケーターや科学教育や普及に興味を持つ学生

募集予定定員: 20名

参加方法: 現地ホテル集合/解散: 現地までの交通の手配および支払い、現地での宿泊は各自の負担となります。予約等も各自の責任において行っていただくことになります。

参加費: 無料。食費、懇親会費等の実費を納めていただきます。

宿泊: 事前に部屋を確保していますが、各自で精算をしていただきます。ホテル名および所在地は次のとおり。

Naniloa Volcanoes Resort:

93 Banyan Drive, HI 96720, U.S.A.

Fax: (808) 969-6622

e-mail: res@hottours.us

宿泊費: 一部屋あたり75ドル程度および税金

応募方法: 希望者は氏名、連絡先、e-mailアドレス、

所属を明記して、レポート「世界最先端望遠鏡『すばる』WSへの期待」(A4, 1ページ程度)を添付して6月23日までに下記宛先へお送りください。参加者選考結果は7月6日に本人あて通知します。

応募締切: 2012年6月23日(土)

応募先: 郵送またはメール

〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台天文情報センター

「最新の天文学の普及をめざすワークショップ係」

E-mail: shoichi.itoh@nao.ac.jp

主催: 自然科学研究機構 国立天文台

共催: 日本プラネタリウム協議会, 日本公開天文台協会, 天文教育普及研究会

後援: 日本天文学会

ワークショップの目標

- (1) すばる望遠鏡を使った研究の成果をプラネタリウム, 公開天文台, 科学館あるいは学校などの教育で活用してもらうため
- (2) すばる望遠鏡の性能を理解するためのフレームワーク作りのため
- (3) 研究者並びに関係者とのコラボレーションのため

主な内容(予定)

すばる望遠鏡が完成するまで

すばる望遠鏡の観測装置

すばる望遠鏡を使った主な観測成果

すばる望遠鏡見学(マウナケア山頂)

すばる望遠鏡の成果と天文学普及実施報告

TMTについて

イミロア天文センター見学

キラウエア火山見学

(マウナケア山頂のすばる望遠鏡見学は、16歳以上の方に限られています。訪問にあたっての健康・安全などに関する情報は、すばる望遠鏡のホームページをご参照ください。)

問合せ先: 〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1

自然科学研究機構国立天文台

天文情報センター 伊東昌市

Tel: 0422-34-3571 Fax: 0422-34-3810

e-mail: shoichi.itoh@nao.ac.jp

会務案内

【日本天文学会理事会議事録】

日 時: 2012年3月19日(月) 18:30~19:50
 場 所: 龍谷大学深草キャンパス2号館203号室
 出席理事: 岡村, 杉山, 河合, 本原, 竹田, 松尾,
 田代, 幸村, 茂山, 柏川, 吉川, 山田,
 太田, 仲野(以上14名)
 欠席理事: 梅村(以上1名)
 また, 西野事務長が出席した.

I. 確認事項など

- I-1 議事に先立ち, 議長と署名人の確認がなされた.
 議 長: 岡村定矩
 署名人: 竹田洋一, 本原顕太郎
- I-2 前回議事録の確認(資料1, 本原)
 資料1に基づき, 前回(2012年1月21日)の理事会議事録が報告・確認された.

II. 報告

- II-1 事業担当理事からの近況報告
 特になし.
- II-2 前回以降の新入退会の報告(資料2, 本原)
 2012年1月17日より2012年3月12日までの間の会員変動が報告された. 新入会は正会員7名, 準会員5名, 退会者は2名, 除名者は27名, 休会者は5名である.
- II-3 PLC規制に関する要望書提出(資料3, 岡村)
 岡村理事長より, 2012年2月29日に地球電磁気・地球惑星圏学会と合同で「電波天文観測に有害干渉をもたらす広帯域電力線搬送通信(PLC)の拙速な屋外利用を進めないこと」と題した要望書を総務大臣に提出したことが報告された.
- II-4 開催中の年会に関する報告(太田, 幸村)
 発表件数は過去3番目に多い749件で, すでに603名の参加受付済み. 懇親会は250名近くの参加が見込まれる. 開催地幹事の中山薫二氏を始め, 龍谷大学, 京都大学の関係者に感謝の意が示された.
 記者会見結果については, 1紙に掲載確認済み, 3紙のインターネット版にも掲載があり, NHKでも放映された.
 また, 公開講演会は300名ほどの参加者で, 盛況だった.
- II-5 次回以降の年会の進捗状況

1. 大分大学(仲野)

公開講演会は, 大分駅近くのコンパルホールで2012年9月22日に開催する. 講演者も確定した. これに対し, 地元紙の協力を仰ぐ, 教育委員会にも働きかけるなど十分な事前の広報活動を行う重要性が指摘された.

懇親会は大学生協で行い, 終了後は大分市内までチャーターバスを用意することになっている.

2. 今後の開催地(本原)

現時点で確定しているのは埼玉大学(2013年春), 東北大学(2013年秋), 国際基督教大学(2014年春), 大阪大学(2015年春)で, 2014年秋季年会の開催地が未定である.

- II-6 新法人への移行スケジュール(資料4, 本原)
 本原庶務理事より, 理事会で現在想定している新法人への移行スケジュールが説明された. 特に, 新法人移行前に代議員を決めておかないといけないことが判明し, 急遽代議員選挙を行う必要がある.

- II-7 会長・代議員選挙について(資料5, 本原)
 会長候補選挙と代議員選挙を同時に行い, 9月上旬に開票するスケジュールで選挙管理委員会と調整を行なっている.

- II-8 年会費のコンビニ支払いの検討について(資料6, 本原)
 本原庶務理事より, 現在郵便振替を基本としている年会費の支払方法を, できる限り口座振替に誘導するようにし, それとともにコンビニ支払いに切り替える検討を行なっている旨報告された. これに対し, 地方に行くところがないところもあるのではないかと, コンビニがないところもあるのではないかと, そういう場合は口座引落にして欲しい, 支払方法がコンビニのみになるわけではなく, 郵便振替や銀行振込も可能である, などの意見が出された. 口座引落に誘導しつつ, それ以外の主たる方法としてコンビニ支払いを導入する方向で検討をすすめることとした.

III. 議題

- III-1 代議員選挙推薦委員会委員の承認(資料6)
 本原庶務理事より, 推薦委員会の委員候補者が説明された. これに対し, 推薦委員自身がか代議員候補者になれるのかという質問が出され, 制度上問題ないことが説明された. また, 初回の推薦委員会開催時に実務理事もオ

ブザー参加し、その趣旨を説明する必要があることが指摘された。以上の議論を経て、代議員選挙推薦委員会委員が承認された。承認された委員は以下のとおりである。岩室史英、郷田直輝、小久保英一郎、原弘久、山内茂雄、山本智（敬称略）。

今回の理事会は2012年6月23日に開催される予定である。

[資料リスト]

- 資料1 前回理事会（2012/1/21）議事録
 資料2 前回以降の新入・退会等会員の変動
 資料3 要望書「電波天文観測に有害干渉をもたらす広帯域電力線搬送通信（PLC）の拙速な屋外利用を進めないこと」
 資料4 新法人への移行スケジュール
 資料5 会長・代議員選挙日程
 資料6 コンビニ納入システムの概要
 資料7 2012年度日本天文学会代議員選挙 推薦委員会候補者
 2012年3月19日

議長：岡村定矩 印
 署名人：竹田洋一 印
 署名人：本原顕太郎 印

【日本天文学会評議員会議事録】

日時：2012年3月20日（火）12:30～13:30
 場所：龍谷大学深草キャンパス2号館203号室
 出席評議員：岡村、海部、牧島、劉、井上、奥村、須藤、嶺重、渡部、家、市川、犬塚、柴田、杉山、林（隆之）（以上15名）
 欠席評議員：伊藤、池内、佐藤、林（正彦）、観山（以上5名）

その他、河合副理事長、本原・竹田庶務理事、松尾・田代会計理事、幸村年会理事、西野事務長が出席した。なお、岡村理事長と杉山副理事長は評議員を兼任している。

I. 確認事項など

- I-1 議事に先立ち、出席者が15名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また議長と署名人が以下のとおり選出された。
 議長：海部宣男
 署名人：犬塚修一郎、林 隆之
 I-2 前回2012年1月28日の評議員会議事録の確

認が資料1に基づいて行われた。

II. 報告

- II-1 理事会報告（本原）
 本原庶務理事より、前日3月19日に行われた理事会の報告がなされた。
- II-2 開催中の年会に関する報告および今後の年会の進捗状況報告（幸村）
 幸村年会理事より、開催中の年会について、順調に進んでいる旨報告されるとともに京都大学、龍谷大学の関係者への謝辞が述べられた。また、今後の年会については大分大学で開催される2012年秋の年会は9月19日より21日までの3日間と決まり、準備も順調に進んでいることが報告された。
- II-3 入退会報告（本原）
 2012年1月17日より2012年3月12日までの間の会員変動が報告された。新入会は正会員7名、準会員5名、賛助会員1名で、退会者は6名であった。また、会費未納により正会員20名、準会員7名が除名となった。これに対し、最近の会員数は総会員数が3000名前後でほぼ一定しているが、これを増やす方策はないのかという質問が出され、そもそもポストが増えていない、夏の学校の参加者自体は年々増加傾向にあるがこれは主に修士学生の参加者増によるものであり、全体の学生数は増えていないだろう、など意見が出された。引き続き庶務理事が中心となって調査を行うこととした。
- II-4 日本学術会議関連報告（須藤）
 須藤評議員（日本学術会議会員）より、学術会議の最近の状況について報告があった。
- II-5 IAU報告（岡村）
 岡村評議員（日本学術会議IAU分科会委員長）より、IAUの最近の状況について報告があった。IAU名簿を整備しつつあるが、日本人会員で姓と名が逆になっているものが多数あるなど間違いがあるので、確認してほしい、など。
- II-6 PLC規制に関する要望書提出（資料2、岡村）
 岡村評議員より、2012年2月29日に地球電磁気・地球惑星圏学会と合同で「電波天文観測に有害干渉をもたらす広帯域電力線搬送通信（PLC）の拙速な屋外利用を進めないこと」と題した要望書を総務大臣に提出したことが報告された。その後科学技術館で記者発表を行い、3紙に掲載されたこともあわせて

報告された。

II-7 新法人への移行スケジュール(資料3, 本原)
本原庶務理事より, 理事会で現在想定している新法人への移行スケジュールが説明された。

II-8 会長・代議員選挙について(資料4, 本原)
本原庶務理事より, 今年度行う新会長候補者選挙, および代議員選挙のスケジュールが説明された。会長候補者選挙については理事長選挙と同じ手続となる。また代議員選挙については推薦委員会を設置し, そこで会員から候補者を募ることになることが説明された。これに対し, tennetなどで勝手連的に推薦するのはいいのかという質問が出され, 問題ないという見解が示された。また, 推薦と平行して立候補を奨励するべきである, そもそも代議員は現在の評議員に比べても格段に重要な責務を担うことになるので, 今後も代議員会の趣旨を会員に周知してゆくべきである, などの意見が出された。

II-9 年会費のコンビニ支払いの検討について(資料5, 本原)
本原庶務理事より, 現在郵便振替を基本としている年会費の支払方法を, できる限り口座振替に誘導するようにし, それとともに天文月報に挟み込んでいる郵便振替用紙をコンビニ支払い用紙に切り替える検討を行なっている旨報告された。これに対し, 事務の省力化にもなり, 多くの会員にとって利便性が向上するので積極的に行うべきであろうという意見が出された。

III. 議題

III-1 代議員選挙推薦委員会委員の承認(資料6)
本原庶務理事より, 推薦委員会の委員候補者が説明された。これに対し, 推薦委員自身が代議員候補者になれるのかという質問が出され, 制度上問題ないことが説明された。以上の議論を経て, 代議員選挙推薦委員会委員が承認された。承認された委員は以下のとおりである。岩室史英, 郷田直輝, 小久保英一郎, 原 弘久, 山内茂雄, 山本 智(敬称略)。

今回の評議員会は, 2012年7月14日に開催される予定である。

[資料リスト]

資料1 前回評議員会議事録

資料2 要望書「電波天文観測に有害干渉をもたらす広帯域電力線搬送通信(PLC)の拙速な屋外利用を進めないこと」

資料3 新法人への移行スケジュール

資料4 会長・代議員選挙日程

資料5 コンビニ納入システムの概要

資料6 2012年度日本天文学会代議員選挙 推薦委員会候補者

2012年3月20日

議長: 海部宣男 印

署名人: 犬塚修一郎 印

署名人: 林 隆之 印

【日本天文学会総会議事録】

日時: 2012年3月20日(火) 17:00 ~ 19:10

場所: 龍谷大学深草キャンパス3号館301号室

I. 出席者確認

出席者の確認の結果, 事前投票総数(会場参加者との重複は除く)が317名, 委任状提出者が20名, 会場参加者は138名だった。なお, 会場参加者のうちで事前投票したものは, 事前投票を無効とした。有効出席者総数は475名で, 定足数(正会員総数1,710名の1/5=342名)を満たしていることを確認した。

II. 議長及び署名人

議長は規約に則り岡村理事長が務めた。次に, 署名人として花岡庸一郎, 前田啓一の両氏が選出された。

III. 2011年度日本天文学会各賞授賞式

引き続き, 各種授賞式が本原庶務理事の司会で行われた。

まず岡村理事長より, 天体発見賞, 天体発見功労賞, 天体功労賞が以下の方々に授与された。

- ・天体発見賞(6氏1グループ): 西村栄男氏, 西山浩一氏・椋島富士夫氏, 板垣公一氏, 坪井正紀氏, 広瀬洋治氏, 古山茂氏(欠席), 中村祐二氏
- ・天体発見功労賞(3氏): 坪井正紀氏, 小島信久(欠席), 板垣公一氏
- ・天文功労賞(3氏): [長期的な業績] 浜野和弘巳氏・浜野和博子氏, [短期的な業績] 佐藤英貴氏

受賞者を代表して, 浜野和弘巳氏から挨拶があった。

次に, 欧文研究報告論文賞が以下の方々に授与さ

れた。

- ・ 欧文研究報告論文賞（2編）：久野成夫氏（他共著者9名）、戸谷友則氏（他共著者7名）

なお、林 忠四郎賞受賞者の田村元秀氏への授賞式は総会前の受賞記念講演時に行われた。また、研究奨励賞は受賞者がなかったため授賞式は行われなかった。

IV. 議事

1. 第1号議案：本原庶務理事が資料2に基づき、2011年度事業報告書の説明を行った。
2. 第2号議案：松尾会計理事が資料2に基づき、2011年度決算報告書の説明を行った。流動資産の未収金が大きいとの指摘があり、これは2011年度末に発行された欧文研究報告の特集号の支払処理が1月であるため、未収金の9割以上は既に回収されたことが説明された。
3. 牧島監事より、上記事業報告書と決算報告書が2012年1月18日に行われた監査で正当であると認められた旨報告された。
4. 第1号議案、第2号議案とも会場参加者と事前投票者の賛成多数で承認された。
5. 第3号議案：本原庶務理事が資料2に基づき、新定款の説明を行った。その後、会場参加者と事前投票者の賛成多数で承認された。
6. 第4号議案：岡村理事長が、第3号議案である新定款について、今後移行申請の際に行政庁との協議で細部に変更が生じる場合にはその変更は理事長に一任する必要があることを説明した。その後、会場参加者と事前投票者の賛成多数で承認された。
7. 第5号議案：本原庶務理事が資料2および資料5に基づき、2012年度中に代議員選挙を行う必要があること、及びその代議員選挙施行細則を説明した。選挙方法についての質疑応答の後、会場参加者と事前投票者の賛成多数で承認された。

V. 報告

1. 日本学術会議報告（須藤）
須藤 靖氏（日本学術会議会員）より、日本学術会議第22期の物理学委員会・天文学宇宙物理学分科会の紹介、及び今後の活動方針（大型マスタープランの改訂、シンポジウム開催など）が報告された。
2. 宇宙利用の今後について（井上）
井上 一氏より、内閣府設置法の一部改正案の説明があった。内閣府に宇宙政策委員会が

設置され、そこで宇宙利用政策が審議・勧告されるようになる。これに伴い、JAXAの規定における平和利用の記述が大きく変わる。また、JAXAの主務大臣に文科大臣・総務大臣だけでなく内閣総理大臣、及び経産大臣も追加される。

3. IAU報告（岡村）

岡村理事長（日本学術会議IAU分科会委員長）より以下のようなIAUの現状報告がなされた。IAU北京総会に向け、日本からは73名の新会員を推薦した。この北京総会では海部宣男氏が新IAU会長に選出される見込みである。Divisionの再編についても進行中であり、これもIAU総会での投票で決定される。また、IAU会員名簿情報の更新作業を進めているので、会員は各自web経由で自分の名簿情報を確認し、必要なら修正して欲しい。姓名が逆になっている会員もいる。やり方は、学会のホームページの「会員へのお知らせ」に掲載されている。

4. PLCに関する要望書について（岡村）

岡村理事長より、2月29日に総務大臣に要望書「電波天文観測に有害干渉をもたらす広帯域電力線搬送通信（PLC）の拙速な屋外利用を進めないこと」を提出し、その後記者会見を行ったことが報告された。

5. 研究奨励賞推薦のお願い（岡村）

岡村理事長より、今年度は研究奨励賞受賞者が該当なしとなったこと、若手を対象とする同賞の推薦は一年限りで翌年には持ち越されないことが説明され、研究は毎年進んでいくものであるので積極的に推薦をおこなって欲しい旨要請された。

6. 七夕講演会（柴田）

柴田一成氏より2012年度も七夕講演会を行うことが説明された。4月にはwebをオープンして、登録を募集する。

7. 5月21日の金環日食（海部）

海部宣男氏（2012金環日食日本委員会委員長）より、5月21日の金環日食について、日本人口の2/3が見られる希有で貴重な現象であり、安全に細心の注意を払いつつ多くの人に見て欲しい事が説明された。日本天文学会員には積極的に地域での活動をおこなって欲しい旨要請された。

[資料リスト]

- 資料1 2011年度日本天文学会各賞
 - 資料2 「議案リスト」日本天文学会2011年度事業報告書, 2011年度決算報告書, 新定款, 代議員選挙施行細則
 - 資料3 IAU 報告
 - 資料4 新法人移行へのスケジュール
 - 資料5 初代代議員の選定方法について
- 2012年3月20日

議長: 岡村定矩 印
 署名人: 花岡庸一郎 印
 署名人: 前田啓一 印

日本天文学会 2012 春季年会報告

2012年春季年会は、3月19日(月)から22日(木)の3日間、龍谷大学深草キャンパス(京都府・京都市)にて口頭講演会場9, ポスター会場18を使って開催された。講演件数は口頭講演が477件, ポスター講演が270件で, ポストデッドラインペーパー2件を含め, 合計749件の講演があった。年会参加者は1020名であった。ジュニアセッションの参加者は約400名であった。また, 以下に報告するように, 通常セッションに加え2件の企画セッションも開催された。開催地理事の太田光司氏, 開催地幹事の中山薫二氏のほか京都大学ならびに龍谷大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により, 順調に進行した。

特別セッションは, 以下の2件が開かれた。

「TMT特別セッション」

世話人: 柏川伸成, 児玉忠恭(国立天文台)

「ALMA特別セッション」

世話人: 斎藤正雄(国立天文台)

座長は次の56名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し, 感謝の意を表する(敬称略)。

	3月19日(月)	3月20日(火)		3月21日(水)		3月22日(木)	
	13:00-15:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30
A	相馬 充 (国立天文台)	矢治健太郎 (立教大学)	高橋弘充 (広島大学)	柴田晋平 (山形大学)	大須賀 健 (国立天文台)	福江 純 (大阪教育大学)	山崎 了 (青山学院大学)
B	吉田篤正 (青山学院大学)	渡辺 伸 (ISAS/JAXA)	川田光伸 (IASA/JAXA)	長田哲也 (京都大学)	祖父江義明 (明星大学)	田中幹人 (東北大学)	小西真広 (東京大学)
C	滝沢元和 (山形大学)	藤沢健太 (山口大学)	井口 聖 (国立天文台)	栗田光樹夫 (京都大学)	秋田谷 洋 (広島大学)	阿久津智忠 (国立天文台)	新沼浩太郎 (山口大学)
D	茂山俊和 (東京大学)	大坪貴文 (東北大学)	高野秀路 (国立天文台)	相川祐理 (神戸大学)	工藤哲洋 (国立天文台)	中本泰史 (東京工業大学)	竹内 拓 (東京工業大学)
E	永田伸一 (京都大学)	渡邊鉄哉 (国立天文台)	下条圭美 (国立天文台)	末松芳法 (国立天文台)	小麥真也 (国立天文台)	澤田剛士 (国立天文台)	奥田武志 (名古屋大学)
F	田中培生 (東京大学)	左近 樹 (東京大学)	井上昭雄 (大阪産業大学)	諸隈智貴 (東京大学)	市来浄與 (名古屋大学)	樽家篤史 (東京大学)	浜名 崇 (国立天文台)
G	川勝 望 (筑波大学)	青木賢太郎 (国立天文台)	谷口義明 (愛媛大学)	大橋隆哉 (首都大学東京)	三澤 透 (信州大学)	嶺重 慎 (京都大学)	藤本龍一 (金沢大学)
H	松元亮治 (千葉大学)	中村 匡 (福井県立大学)	坂和洋一 (大阪大学)	犬塚修一郎 (名古屋大学)	井 通暁 (東京大学)	柴田一成 (京都大学)	星野真弘 (東京大学)

〈記者会見〉

春季年会の前日、3月18日(日)14:00から、京都大学・百周年時計台記念館2階・国際交流ホール1にて行われた。岡村定矩理事長からの挨拶と日本天文学会春季年会の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関6社の出席があった。4月20日までに確認できたもので、テレビニュースにて1件、新聞で8件の報道があった。

●研究発表

- (1) 金環日食を迎え撃つ—日本史上最大人数が観察できる金環日食を安全に—
記者会見出席者: 大西浩次(日本天文協議会・2012年金環日食日本委員会/長野工業高等専門学校)ほか
関連する講演番号: Y 24a, Y25a, Y26a, Y27a, Y28a, Y29a
- (2) 共食いする“毒蜘蛛”中性子星—新種のパルサー発見に、日本の総力を結集—
記者会見出席者: 谷津陽一(東京工業大学), 高橋洋輔(早稲田大学)
関連する講演番号: J34a, J35a
- (3) 形成されつつある惑星の兆候を捉えた—すばる望遠鏡による新たな発見—
記者会見出席者: 森田彩佳(茨城大学・大学院生)
関連する講演番号: P119a

〈特別セッション報告〉

【ALMA特別セッション: ALMA初期科学運用観測開始】

ALMA特別セッションは、年会1日目の3月19日15:30から約1時間半弱、H会場で行われた。最初に、長谷川哲夫ALMA推進室教授から、ALMA建設進捗、最初の共同利用(Cycle 0)の進捗の報告があった。すでに半分の33台のアンテナが5000 mサイトへ設置された一方で悪天候にも苦しんでいる様子が伝えられた。また、2012年4月からの国立天文台のALMAプロジェクトの新しい体制について紹介があった。その後、立松健一ALMA推進室教授より、次回共同利用のCycle 1でどんな観測モードが新たに導入され、サイエンスを広げるかの説明があった。また東アジア地域センターサイエンティストのEspada博士はALMA観測所が取得している科学評価用データの意義や、科学評価用データの中からユーザーへ公開しているものを紹介した。アンテナ銀河、TW Hya星まわりの原始惑星系円盤、銀河中心のスペクトルなど始まったばかりであるがALMAの性能を示せたと思う。参加者は210名ほどで、前回同様講演室は立ち見がで

るほど盛況であった。年齢、分野とも広い範囲の方が参加してくださり、ALMA共同利用観測への意欲と期待が強く感じられ、Cycle 1に向けて大変有意義な会となった。

(齋藤正雄)

【TMT特別セッション】

TMT特別セッションは、年会3日目の3月21日15:45から約1時間半、H会場で行われた。最初に、家正則・国立天文台TMT推進室長から、TMT(Thirty Meter Telescope)計画の科学的目的、建設予定地、基本性能仕様、望遠鏡構造、主鏡方式、ドーム構造、観測装置、推進組織、国際パートナー、スケジュール、予算要求状況、国際役割分担、運用方針などについての検討状況の報告があった。続いてTMT時代のサイエンスを共有するために2名のスピーカーを招待し、それぞれの分野の展望を語ってもらった。IPMUの吉田直紀氏は、137億年の宇宙進化の様々な時期に存在した様々な天体について、あるいは太陽系から初期宇宙に至るまで、TMTで期待されるサイエンストピックスをダイジェストで紹介し、TMTで実現できるサイエンスが天文学の幅広い分野に及ぶことを示した。国立天文台の成田憲保氏は、主に系外惑星探査に焦点を絞り、現在行われているあるいはTMT稼働前に行われる見込みの系外惑星探査計画を絡めながら、TMTによってどのような研究を行うことができるのか、特に地球やそれ以下のサイズの惑星や生命居住可能領域にあるとみられる惑星について飛躍的に理解が進むであろうことを紹介した。参加者は100名を優に超え、講演室は立ち見がでるほど盛況であった。光赤外関係者に限らず、幅広い分野の研究者の方が参加してくださり、TMT計画参加へ向けての天文学コミュニティとしての意欲と期待が強く感じられた。今後もこの特別セッションを通じて、計画の現状、検討状況を報告していくとともに、様々な分野の研究者が積極的に参加する機運を盛り上げていきたいと考えている。

(柏川伸成, 児玉忠恭)

〈企画セッション〉

【プラズマ宇宙物理】

物理学会、天文学会、地球電磁気・地球惑星圏学会(SGPESS)3学会合同のプラズマ共催セッションを企画セッション「プラズマ宇宙物理」として3月19日~3月22日にH会場で開催した。この共催セッションはプラズマ宇宙物理に関連する国内の研究者が一堂に会して議論できる場を提供し、分野の枠をまたぐ研

究交流を推進することを目的として、3学会持ち回りで開催しており、6回目の今回は天文学会が主催した。前回共催セッションの参加者アンケートで口頭講演はシングルセッションにしてほしいとの希望が多かったため、今回の口頭講演会場は1会場とした。発表形式は基調講演（口頭18分+質疑6分）、a講演（口頭9分+質疑3分）、b講演（口頭3分+ポスター）、c講演（ポスターのみ）のいずれかとした。

講演募集テーマと基調講演者は以下の通りである。
[粒子加速・衝撃波・相対論プラズマ] 大平 豊 (KEK), 大澤幸治 (名大), [磁気リコネクション] 銭谷誠司 (国立天文台), 井 通暁 (東大), [太陽活動: フレア・コロナ加熱・宇宙天気・太陽風] 勝川行雄 (国立天文台), [天体磁気圏・惑星圏] 柴田晋平 (山形大), [磁気流体現象: 降着円盤・ジェット・ダイナモ・乱流・輸送・構造形成] 廣瀬重信 (JAMSTEC), 藤澤彰英 (九州大), [実験室宇宙物理, プラズマ計測・観測] 高部英明 (阪大), 蔵満康浩 (阪大), 加藤恒彦 (広島大), [弱電離プラズマ・放電・大気電磁気現象・ダスト] 芳原容英 (電通大), [シミュレーション技法・超並列計算] 荻野竜樹 (名大)。
なお、藤澤彰英氏は参加できなくなったため年会実行委員会の許可を得て伊藤孝孝氏 (核融合研) が代理で基調講演を行った。

各学会のメーリングリスト等を通して講演募集を行ったところ78件の応募があり、調整の結果、a講演37件、b講演28件、c講演8件の73件、基調講演13件とあわせて86件を本企画セッションで発表していただくこととした。基調講演者のうち1名がc講演も行ったため、講演者数は85名である。学会別の講演者の内訳は物理学会23名、天文学会42名、SGEPSS14名、未加入6名であった。ただし、複数の学会に所属している参加者も多いため、この数は主として活動している学会に基づく。なお、シングルセッションの枠におさめるため、a講演希望者のうち19件を本企画セッションのb講演またはc講演とし、4件は通常セッションで講演していただいた。

口頭講演会場には約100名が出席し、4日間にわたって活発な討議が行われた。特に基調講演には分野を概観する周到に準備された講演が多く、今後も基調講演を軸としたセッション構成で本共催セッションを続けてほしいという意見が多く寄せられた。次回の3学会合同プラズマ共催セッションは2013年3月に物理学会主催で開催する予定である。

(松元亮治)

【X線天文衛星ASTRO-Hで拓く新世紀のサイエンス】

企画セッション「X線天文衛星ASTRO-Hで拓く新世紀のサイエンス」は、年會3、4日目午前・午後にG会場にて行われた。ASTRO-H衛星プロジェクトマネージャーの高橋忠幸氏によるASTRO-H衛星の紹介に始まり、超精密分光観測によるサイエンス、ワイドバンド観測によるサイエンス、粒子加速のサイエンスについて、基調講演7件を含めて36件の発表が行われた。全講演のうちの15件がX線観測を行っている研究者以外の方の講演であり、外国人による講演も5件あった。各自がこれまでに行ってきた研究の成果に基づいたASTRO-H衛星で目指すサイエンスについての検討結果が報告され、活発な議論が行われた。その内容は電波からガンマ線までの多波長観測および理論からのアプローチに関する幅広いもので、対象とする天体も太陽系内天体から銀河団までの多岐にわたるものであった。X線天文学関係者に限らず、理論、電波からガンマ線を専門とする多くの研究者の参加があり(どの時間帯でも100名ほどが参加)、大変盛況であった。

今後さまざまなコラボレーションを実施してはどうかという意見が多く聞かれ、天文学コミュニティのASTRO-H衛星に対する期待が強く感じられた。今回の企画セッションをきっかけにして、今後更なる検討が進められることを期待したい。

(山内茂雄)

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催で開催された天文教育フォーラムは2012年3月19日の17:00より18:30まで、天文学会のH会場で行われた。参加者は約120名であった。今回のテーマは「科学コミュニケーションと天文学」で、1年前に筑波大学で開催予定であったフォーラムとはほぼ同じ主旨のテーマで、震災も含めた広い視点からの話題を立場の異なる3名の方から提供していただいた。

まず、科学コミュニケーションを専門とされる東京大学理学部の横山広美さんからは「震災と科学コミュニケーション」というタイトルでお話ししていただいた。これまでの科学コミュニケーションの潮流を概観し、危機時と平時の科学コミュニケーションの相違点や科学コミュニケーションの周囲にある概念などをわかりやすく紹介された。続いて国立天文台の縣 秀彦さんより「天文学におけるサイエンスコミュニケーション活動の現状」というタイトルでお話ししていただいた。科学コミュニケーションを政策に反映する社会の文脈でとらえる視点と、楽しみや人間同士のつな

がりなどに反映する個人の文脈における視点を分けて扱う必要性を示された。また今後、天文学は科学文化形成のコアになっていくべきであるとの考えを紹介された。3人目は市民として活動されている小幡真希さん（星のソムリエみたか（R））より「市民の立場による科学コミュニケーション」に関する話題提供をいただいた。ご自身の星のソムリエとしての活動や、カンボジアでの天文学教育を行った経験などを話された。そして一般市民として個人の自由な時間に科学から芸術までの広い範囲にわたってコミュニケーションに關わってゆきたい旨を述べられた。

最後に3名の登壇者が壇上に上がり、高梨直紘さん（東京大学生産技術研究所／EMP）の進行で会場からの質疑に答える形で議論いただいた。必ずしも科学に興味のある層は多くないので、接触回数を今後も増やす努力をすべきであることや、日本の特徴として天文学にはコミュニケーションを求めている層が多いことなどが議論の中から示された。一方でコミュニケーションそのものの難しさや、科学コミュニケーターを職業として定着させることの困難さも指摘された。

（仲野 誠）

〈林 忠四郎賞受賞記念講演〉

年会2日目、3号館301にて15:45から30分間、2011年度林 忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者は国立天文台の田村元秀氏で、講演題目は「太陽系外惑星とその誕生現場の直接観測」であった。講演では、田村氏らが独自に開発したコロナグラフを、補償光学システムを持つすばる望遠鏡に取り付け、高コントラスト観測を実現することで、世界で初めて太陽型星を回る巨大系外惑星の直接撮像に成功したことなど、これまでの研究成果や、研究分野のこれまでの研究の進展について、わかりやすく解説していただいた。会場は200名を超える盛況ぶりであった。

〈懇親会〉

懇親会は3日目の3月21日（水）に、龍谷大学深草キャンパス3号館の生協で開催した。参加者数は、事前予約212名（一般133、学生79（アルバイト含む））、当日申込の参加者は42名（一般24、学生18）の合計約250名の参加であった。まず、岡村定矩理事長の挨拶があり、特に龍谷大学による開催支援への謝意を表された。続いて、龍谷大学の赤松徹眞学長の挨拶があり、同大学の歴史等の話を伺った。その後、小暮智一（京大名誉教授）氏による乾杯の発声により懇親会が始まった。今回の年会は、京都は伏見の地で開催ということで、地元伏見の16酒蔵から17の銘柄を、京都

市内の1酒蔵から1銘柄を供した。これは、伏見の酒蔵で一升瓶を入手可能なほぼすべてをカバーしており（非常に大手の酒蔵を除いたため全部にはなっていない）、サンプルとしては相当高いコンプリートネスを誇るものであった。食べ物も日本酒にあったものが多く供され、また震災支援コーナーでは福島や仙台の名物の屋台が出た。参加者からは、大変よかったと御好評を頂き、主催者としても嬉しい限りである。最後に次回開催地である大分大学の仲野 誠氏から大分での学会の参加への呼びかけ等があって、散会となった。

（太田耕司、中山薫二）

〈保育室〉

保育室は龍谷大学こども教育多目的室を使用した。6家族子供7名の申込があり、5家族子供6名の利用があった。準備にあたり龍谷大学中山薫二氏ならびに同大学スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。

（峰崎岳夫、米倉寛則）

〈正会員向け展示ブース〉

本年会で正会員向けの展示ブースを開設し、以下の2件の展示が行われた。

「ALMA展示ブース：ALMAプロポーザル作成・データ解析相談室」

世話人：西合一矢（国立天文台）、齋藤正雄（国立天文台）、奥村幸子（国立天文台）

「TMT展示ブース：TMT望遠鏡セグメント鏡の試作」

世話人：家 正則（国立天文台）、山下卓也（国立天文台）、鈴木竜二（国立天文台）

〈ジュニアセッション〉

第14回ジュニアセッションを、天文教育普及研究会との共催で開催した。口頭とポスターでの発表57件とポスターのみの発表6件の、合計63件の発表があった。このほか、1件の発表がキャンセルされた。第12回に続いて、タイから高校生6名が来日して2件の発表を行なった。発表はたいへん多岐にわたり、8つのセッション（夜空の明るさ、月食、タイ、位置天文・太陽・装置開発、銀河・銀河団・星雲、恒星・星団、太陽系、宇宙開発）に分けられた。口頭発表は、3月20日の午前・午後に行われたが、発表件数の多さから、1件あたりの発表時間は4分（タイの発表のみ8分）と短くせざるを得なかった。ポスターセッションは、午前中の40分間程度が公式に、また口頭発表終了後に希望者参加で行われた。口頭発表は、和歌山大学クリエ映像制作プロジェクトのご協力でインター

ネット中継され、またUSTREAMで視聴可能となっている。ジュニアセッションへの参加受付は335名で、研究者も加えると約400名の参加者があった。司会は、午前には有本淳一氏（京都市立塔南高校）と米徳厚憲氏（京都産業大学）、午後には時政典孝氏（兵庫県立西はりま天文台公園）と山村秀人氏（滋賀県立長浜北星高校）に務めていただいた。また、マイク係として、午前には岡山商科大学附属高校、午後は長野工業高等専門学校（生徒の皆さんにお手伝いいただいた。なお3月19日には、高校生天体観測ネットワーク全国フォーラムの中でジュニアセッション交流会を催していただいた。これらすべての催しに対し、開催地および運営に携わった多くの方々に多大なご協力をいただいたことに、改めて感謝の意を表する。

（山岡 均）

〈公開講演会〉

公開講演会は、年会前日の3月18日（日）13:00～17:00に京都大学百周年時計台記念館にて、「最新テクノロジー望遠鏡で迫る宇宙」というテーマで行われた。約300名に及ぶ熱心な来場者に恵まれた。

吉川 真天文教育担当理事の司会により、岡村定矩理事長の挨拶に続き、まず、柴田一成教授（京都大学）から、講演会の主旨と金環日食についての話があった。続いて3名の講師による講演があったが、最初は長田哲也教授（京都大学）による「光赤外線望遠鏡、その最先端技術」という講演が行われた。天文学の基本である光による観測について、現状の技術と将来のより大きな望遠鏡についての紹介があった。次に、長谷川哲夫教授（国立天文台）による「アンデスの巨大電波望遠鏡ALMA」の講演が行われた。チリ

の高地に建設中で、すでに観測も始まっている電波干渉計の最新情報について紹介された。続いて、小山勝二名誉教授（京都大学）による「X線望遠鏡って：それで何が見えるの」という講演が行われた。X線という波長の短い電磁波を使った天文学についての解説に加えて、過去の超新星爆発についても詳しい解説があった。各講演後に設けられた質疑応答の時間には熱心な質疑応答がなされたが、最後に、講演者全員に壇上に上がっていただき、30分ほどのパネルディスカッションを行った。事前に配布した用紙に質問を書いてもらい、各講演者から回答していただいた。また、会場からも活発な質問があった。

前回に引き続き、アンケートを実施し150の回答を得た。アンケートは今後も継続して実施し、今後の宣伝方法やプログラム編成の参考とする考えである。

なお、本企画は、京都大学、京都大学大学院理学研究科、京都大学宇宙総合学研究所、京都府教育委員会、京都市教育委員会、NPO法人花山星空ネットワーク、京都新聞社の後援で実施された。

（吉川 真）

（年会実行委員長：幸村孝由）

訂 正

2012年5月（第105巻5号）347頁の書評「総説 宇宙天気」において編著者のお名前が間違っておりました。お詫びして訂正致します。

誤）柴田一成・上田洋介

正）柴田一成・上出洋介

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード：雑誌コード（5桁の数字と）vol98（5文字）の計10文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

柏川伸成（編集長）、市来浄興、勝川行雄、鈴木 建、徂徠和夫、竹井 洋、野田寛大、浜名 崇、廣田朋也、前野将太、山崎 了

平成24年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献印刷社

定価700円（本体667円）発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務所）/ 0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©社団法人日本天文学会2012年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）